

CONTENTS

第6回 だれもが知ってる建築史のはなし  
謀る …………… 溝口正人 …… 2

地域会長就任に当って …………… 大瀧正也・久保田英之・長尾英樹・奥野美樹 …… 4

通常総会レポート …………… 中澤賢一・石橋 剛・吉村昭範・山田浩史・相原宏康 …… 6

JIA 東海支部通常総会 支部記念講演会  
これからの建築家の役割 …………… 豊田由紀美 …… 8

JIA 静岡発 総会記念講演会  
藤村龍至氏「建築家不要論の時代に」 …………… 大橋康孝 …… 9

JIA 三重発 総会記念講演会  
本居宣長旧宅と本居宣長記念館 …………… 伊藤達也 …… 10

保存情報 第176回 長良川鉄道美濃市駅…………… 澤村喜久夫  
オリナス一宮 旧名古屋銀行一宮支店 …………… 谷 進 …… 11

JIA 愛知発 美術サロン  
第11回美術サロン開催！今後の展開に期待！  
榎戸正浩・神谷義夫・栢本良三・川窪 巧・後藤文俊・田中英彦・福田一豊・山田尊久・  
山田恒雄・山田正博・吉川法人 …………… 12

理事会レポート …………… 鈴木利明 …… 14

東海支部役員会報告 …………… 矢田義典 …… 15

地域会だより …………… 15

法人協力会通信④ TOTO(株)中部支社 …………… 四辻一正 …… 16

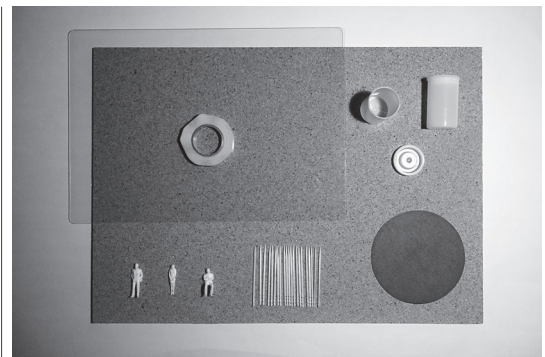
編集後記 …………… 石橋 剛・伊藤彰彦 …… 16

スケールと幻想  
4



牧ヒデアキ  
makira DESIGN

今回は爪楊枝を柱に見立てて組みました。柱のない膜構造などありますが、建築にとって柱は主に構造的な意味から無視できない存在です。柱を可能な限り細く見せたい、柱の存在を消したいなど、常に設計で悩む部分でもあります。また御柱のように神的な意味を持っていたり、精神的支柱という言葉もあつたりします。今回なぜ柱なのか……少し前に埼玉県立近代美術館を訪れたせいなのか、昨年写真のグループ展参加などの関係から京都に何度も訪れる機会があり、帰りに国宝建築物を見てまわっていた影響なのか……。建築に携わる先人達がそれぞれに悩み工夫されてきた歴史を踏まえつつ、あらためて柱の持つ意味と柱が醸し出す表情や空間性についてふと考えてみたくなったのかかもしれません。



- 今回使用した家庭用品
- ・ コルクボード 420×297×6… 1枚
  - ・ 下敷き クリア 297×210… 1枚
  - ・ 爪楊枝 φ2×65… 21本
  - ・ マスキングテープ 9mm 幅… 1個
  - ・ 35mm 判フィルムケース φ31×53… 2個
  - ・ コースター φ100… 1枚
  - ・ 1/50 人物模型… 3体

# 謀る

溝口正人 | 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授

私のパソコンの漢字変換ソフトによれば、「謀る」とは、策略をめぐる、(あれこれ工夫して)だます、方策を考える、工夫する、うまく対処する、とあります。今まで取り上げてきた「はかる」が行為そのものを示す言葉であるとしたら、「謀る」には、行為の背景に巡らせるべき「たくらみ」の存在が不可欠なようです。策略とは誤解を生みそうですが、知的な「たくらみ」と置き換えるならば、建築設計には、何らかのたくらみは不可欠ですから、謀ることは必須なのだとも言えるでしょう。実は学問的な真理を追究しているかにも見える建築史の分野でも謀ることは欠かせません。映画「だれも知らない建築のはなし」を受けた連載の最終回は、建築史での「謀る」ことの諸相がテーマです。

## 復元・復原という謀りごと

建築史の学術的な成果を一般の方に伝える上で、図化や模型制作といった可視化は有効な手段です。「復元」とは現存しないある時期の建物の姿を推測すること、「復原」とはある時期を遡ってもとの状態へ戻すこと。いずれも過去に想いをめぐらしながら、科学的な手続き・証拠をもとに進められるべきものですが、必要なすべての情報が明らかになるわけではありません。タイムマシンで過去へと飛ぶことはできませんから、想像に依らざるを得ない部分があります。時には科学的、あるいは社会的な妥当性を越えて「かくあるべし」という建築観が入り込む余地があることも否定できません。実は、この建築観が厄介でもあります。

平井聖博士は「復原という作業は、現存する遺構にかかわる場合も、全く失われてしまった建物を新たに建てる場合も、残されている史料に対する解釈、推測、そして現実との妥協の上に立った創作、と考えている。」(建築雑誌1994年1月号)と、復元・復原という謀りごとの本質を明快に論じています。どれほど声高に学術的妥当性を唱えても、現代的な技術と解釈に基づく創作であることからは逃れられないということなのでしょう。

痕跡の詳細な分析による復原手法を確立した建築史学の泰斗、浅野清博士による法隆寺伝法堂の前身建物復原の過

程は、結果の意外性もあって推理小説にも似た面白さがあります。ただしこの復原も、いくつかの想定のもとに成り立っています。1964年の第2回歴史記念建造物関係建築家技術者国際会議で採択された、文化財の保存修復に関するパイブルとも言えるヴェニス憲章は「推測による修復を行ってはならないこと」を記しますが、極論すれば、往時の姿に戻そうと思った瞬間、推測なしに復原は成立しません。そして復元・復原、いずれも3次元の現物に仕上げる設計行為ですから、不明として白抜きやモザイク掛けはできません。不明な部分に創作が加わることは不可避ののだと言えます。

榎文彦氏設計の古代出雲歴史博物館には、壮大な社殿の一部が発掘で見つかった中世出雲大社本殿の5通りの復元案が模型で示されていますが、その振り幅に驚きます(図1)。しかし、もとより手掛かりの少ない復元ならば、設計者の建築観の数だけ復元案は存在する。復元が、科学ではなく設計行為であることを如実に示す事例とも言えます。

## 謀りごとの功罪

東海地区には、国宝に指定されている永保寺開山堂や観音堂をはじめとして国指定文化財となっている禅宗様の仏堂は多く、そのひとつである定光寺本堂(瀬戸市)は明応9(1500)年竣工で、典型的な二重の禅宗仏堂の事例です。しかし永正7(1510)年の地震で大破、破損が進んで失われていた上層は、昭和14(1939)年の修理工事で他例に倣って復元されたものです。修理報告書に掲載された修理前の写真(図2)をみると、前後の激変ぶりに驚かされます。室町前期の建物とされる天恩寺仏殿(岡崎市)も同様で、維持が困難として明治15(1882)年頃に屋根を撤去、仮屋根とされ、大正6(1917)年の修理で現状の屋根に復元されたものです。報告書に掲載される大正修理前の写真(図3)を見ると、とても現状は思い浮かびません。

建物にせよ町並にせよ、価値が可視化され、共有されて初めて保存に結びつく。しかし可視化されて出現するモノとしての訴求力は大きなものと言えます。復元であれ復原



図1 | 中世の出雲大社本殿の復原5案の模型



図2 | 定光寺本堂(瀬戸市)修理前の外観



図3 | 天恩寺仏殿(岡崎市)修理前の外観

であれ、建築学の設計教育を受けてきた人間ならば誰でも、現物化したい、設計したいという欲求が湧き上がりますが、イメージの固定を生む現物化の功罪については、常に意識しなければなりません。

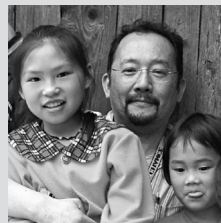
国宝犬山城は、樹種が多様でチョウナ仕上げである大屋根の1・2階部分と、望楼部分の成立年代が異なるものと指摘されてきましたが、昭和36(1961)年から実施された解体修理時によって新たな知見が得られています。現状では塗籠とする大屋根の軒廻りは、かつて垂木の頭わしであったこと、望楼は現状と異なる形状であった可能性があること、南北面の唐破風は望楼部分の建造から遅れて付加されたこと、以前は4階の廻縁が大屋根で南北に分断されていたことが明らかとなったのです。犬山城と松本城、現存最古の天守はどちらかをめぐっては、研究者で意見が分かれるところですが、上記の発見をもとに大胆に復原するならば、犬山城の印象は随分と古式なものとなるでしょう。しかし2階建ての大屋根の上に望楼をいただき、南に望む城下に華麗な唐破風を見せる現状に価値を置くならば、推測

と創作の積み重ねとなりそうな復原は、謀るべき選択とはいええないでしょう。

### 時代の謀りごとはどう臨むか

2020年のオリンピックに向けて江戸城や名古屋城の天守再建が話題になっています。ただし全国で天守再建が進められるのは、今回に限ったことではありません。維持費が高む存在であった城郭の建物群は、実は天下泰平の時代になると厄介者。でも体面もあって壊せない。武士は食わねど、です。ですから明治になると取り壊しが進みます。一方で地域を可視化する存在として天守は再評価されることとなりました。かつての大坂繁栄のシンボルとして「大阪城天守閣」が建てられたのは昭和6(1931)年、近代復興天守の第1号は、徳川時代の石垣の上に豊臣時代の天守風に建てるというものでしたが、近代の時代性を示して国登録有形文化財となっています。戦後になると、多くの城郭で天守が再建されました。明治に取り壊されたもの、空襲で焼失したもの、史実には基づかないもの、対象はさまざまでしたが、地域のシンボルとして城と天守が再浮上し、空前の天守ブームになったのです。

明暦3(1657)年正月18日の大火で焼失した江戸城の天守は、万治2(1659)年の幕閣の評定で再建中止が決定されます。幕閣に重きをなしていた保科正之が「天守は近代(織田信長以来)のもので、軍事というよりは「観望」を目的としたものであるから、再建に及ばない」(『千年の松』)として再建不要と断じたのでした。平和な時代の到来とともに存在意義を失った天守の再建が見送られ、350年後の現代に復元が検討される。実は文化財修理の観点からは、木材が高騰して予算を圧迫し、修理すべき文化財が朽ち果てる可能性がありますから賛成できる話ではありません。純粋に学問の産物と考えられがちな復元・復原が、実は時代を反映した謀りごとであることが痛感されます。そして学問としての建築史は、時代と寄り添うのか間を置くのか、選択を迫られている昨今です。



みぞぐち・まさと | 1960年三重県生まれ。名古屋大学卒、同大学院修了。清水建設設計本部、名古屋大学助手を経て現職。専門は日本住宅史、漢族・少数民族住居誌。文科省文化財保護審議会第二専門調査会委員、愛知県文化財保護審議会委員、重要伝統的建造物群保存地区保存審議会委員(妻籠、奈良井、足助など)。町並調査(美濃、醒井、犬山、足助、有松、揖斐川など)、近代化遺産調査(秋田、鳥取、愛知)、名古屋城本丸御殿・湖西市新居閣の復元などに従事。写真はヤオ族の子どもとともに。

## ■地域会長 就任に当って

### ホスピタリティを 実践する

静岡地域会長

大瀧 正也



皆さま、静岡地域会長に就任いたしました、大瀧正也と申します。これからの任期中、どうぞよろしく願いいたします。

さて、近年は企業収益の改善や景気回復への期待を背景に、企業の設備投資の動きも活発化する傾向にあると言えます。しかし、静岡県内では、人口流出、雇用の回復の遅れ、公共投資の減少基調、新興国経済の減速の影響、建設業界では、請負単価の上昇難、杭工事の報告書偽装など、不安定な要素もまだまだ見受けられます。さらに、先日の熊本地震による未曾有の大災害の影響もあり足踏み感の残る厳しい状況にあると言えます。

このような閉塞感のなかで、われわれ建築家にいったい何ができるのか、何をすべきなのか、今、あらためて考える時ではないでしょうか。まず何よりも、JIA倫理規定、行動規範にそった形での社会への「誠実さ」が求められているように思います。その手掛かりとなるものに「ホスピタリティ」という言葉があります。「親切な行動をする。思いやりのある態度を示す精神」という意味ですが、「おもてなし」と「おもいやり」は違うものです。日本人は、商売としての接客は超一流、しかし、意外に物事に無関心で、人を思いやる気持ちに欠けるということでしょうか。われわれは高度に専門的で公共性の高いプロフェッショナル・サービスを社会に提供、発信していくことを職業としています。しかし、このような技術の提供だけではいけないのではないかと思います。そこに、社会や個人に向けた「誠実さ」「おもいやり」といったものが必要なはずで、このことは、今後の事業の中で、取り組んでいきたいと考えています。

今後実施する事業の中で、会員の自己研鑽、法人協力会との交流の拡大を図って参りたいと思います。また、「建築フェア」では、「建築家とは何か?」「何を考えているのか?」「社会での役割は何か?」といったことを分かりやすく明快に示していきたいと考えています。そして、このようなことを直接、社会・一般市民に働きかけ、その趣旨を理解してもらい、信頼を得ていくことが必要であると思います。

もう一つ大切なことが、会員拡大であります。JIAの会員種別は少し複雑ですが、それぞれの種別に沿った分野で、広く拡大を図って参りたいと思います。

今後、市民・会員にとって魅力ある団体となるよう、役員一同一丸となって努力してまいりますのでどうぞ、よろしく願い致します。

### 魅力ある JIA を 社会へ発信

愛知地域会長

久保田英之



2016年度から2年間、愛知地域会長を務めさせていただくことになりました。

思えば、このJIAを知ったのは大学3年生のときでした。大学のゼミで、JIAの組織内の話、東京の建築家との話、会員になるには推薦者が2名必要なことなど、高嶺の花と思える組織でしたが、反面、とても憧れたJIAでもありました。その頃から東海支部の設計競技にも4回程応募し入賞することができました。そのJIAに、尊敬する先輩から誘われ入会したのが2000年の35歳のときでした。それから16年の月日が流れ、先輩会員からさまざまなことを教わり貴重な勉強をさせていただきました。

私にとっては学びのJIAでもあり、今後もより一層魅力あるJIAを目指し、社会にアピールできる組織体制をとっていききたいと思います。

会の基本は各委員会への活動の参加から始まります。まずはそこに参加し、会員同士の交流を図り、お互いにあてにし合える仲間づくりをしていけるように各委員長にはお願いしております。

今期の活動としては、名古屋市立大学にて2コマ15回の授業をJIA愛知の会員が受け持ちます。また、あいちトリエンナーレへの参加、建築家フェスティバルの開催、建築家マップの作成検討、「地域が建築に求めるもの」と題しての連続建築セミナーも始まり、より幅の広がった活動を行っていきます。

また、建築の他団体とは共同企画イベントを行い、横のつながりを深め建築業界内の議論が出来る場をつくり出すとともに、会員の抱える建築相談についてもサポートが行えるようにしていきたいと思っています。

JIA活動の基本は、個人ではできないことを行うことです。常に社会を意識し、われわれ会員が仕事をしていくことでより良い環境を生み出し、潤いのある社会が生まれていくという思いを共有し活動します。正会員はもとより、準会員、協力会員との横のつながり、ベテラン会員から若手会員に至るまでの縦のつながりも大切にし、「ALL JIA」として、この2年間の活動を行っていきます。

会員が力を合わせて一緒に歯車を回すことで共に幸せな社会の一端となれるように、今年度の地域活動への積極的なご協力をお願いいたします。

## 「愉しく魅力あるJIA創り」を目指して

岐阜地域会長  
長尾 英樹



本年度、岐阜地域会は「愉しく魅力あるJIA創り」を目指して  
いこうと考えています。

岐阜地域会から東海支部長を輩出させていただくこともあり、  
岐阜地域会全体として、東海支部を支える心構えを持ち、  
東海支部発展のため尽力していこうと思います。

現在正会員17名と少数ですが、集中力を持ってできる事業を  
行うことが、会員の持てる力を発揮し、魅力あるJIAへとつな  
がるのではないかと考えます。

会員が力を発揮するためには、1.会員が事業を愉しむこと。  
2.愉しく会員・準会員を増やすこと一が大切と考えます。

公益社団法人化以降、制度が先行しがちな現在のJIAの中で、  
会員のポテンシャルアップが、これからの活動の盛り上がりの  
鍵だと思います。

事業を心から愉しもうとすることが、会員自身の充足感を生  
みだすと思います。岐阜地域会では、ここ数年継続し、好評を  
いただいている公益性の高い事業である「JIAの窓」(岐阜地域  
会で活躍するJIA会員以外の建築家との交流の場)を主軸に、  
会員同士、会員外の方々との対話を通して、建築家としてのワ  
クワク感が増し、発想力やディテールなどを学び、レベルアッ  
プができる活動を行っています。そうした中で、自ずと事業  
に対しての愉しさと充足感が増してくると思います。

また、岐阜地域会に入る予定の新会員予備軍の期待感を高め  
るため、事業広報に積極的に力を入れて行きます。事業を行う  
時は準会員募集パンフを積極的に配布、HPからの広報活動に  
より会員を増やすことも考えています。

これらの活動により、「近頃のJIAは愉しそうだね!」という  
声が会員外の建築家や、地域の方々から聞こえて来るような  
JIA岐阜地域会にしたいと考えます!

東海支部の四地域会と共に、公益社団法人の「がんぼ楽しい団体」  
として2年間<sup>がんぼ</sup>顔晴ろうと思います。よろしくお願い申し上げます!

## 会の魅力を再発見して 深めていく

三重地域会長  
奥野 美樹



この度2016年度三重地域会長に就任いたしました。よろしく  
お願いします。

96年に入会し今年でちょうど20年が経ちました。地域会や支  
部での委員長・役員を経て、本部広報委員会に出席させていた  
だけるようになり、おぼろげながらもJIA全体の姿が見えてき  
たところでした。

今や4000人を切り減少し続ける正会員数となりましたが、取  
り組んでいる事業は相当数です。各々が活動する場所々々でさ  
まざまな思いの事業が展開されています。私が入会時は独立し  
て5年程が経ったところで、経済的にも不安定な中、自身の立脚点  
をひたすら探し迷っていた時期でした。当時の三重地域会ほと  
も真摯な事業運営をされており、自分の危うさに比べてその  
姿はとても気高く素敵に感じたことを覚えています。事業は『建  
築文化講演会』、『建築ウォッチング』、『アーキテクトみえ』の3  
つを核に行われており、少ない会員でも内容が充実していて意  
義性も高い丁寧な企画でした。今も続くこれらは三重地域会の  
バックボーンとも言える事業です。

JIAは新たな会員制度が設けられ裾野も広がりました。会に  
対して受け身でいるのはもったいなく、自らが先立って動く方  
が面白くて楽しい会です。全国に散らばる思いが似通う仲間が  
いて、色々な分野に精通する猛者達がいる。地域会-支部-本部  
のつながりがエリアを開き、情報を得て互助の体制も取れる。  
人や距離の垣根もない中で自己研鑽できる、とても発展性の高  
い会なのです。

他方、JIAは組織としての課題と個々のあり方を示す課題が  
あります。どちらも自分達の環境に関することであり、ポタン  
の掛け違い的な細事に拠るようには思えてなりません。社会に示  
すべき姿勢を再確認し、会の目的をもう一度考察し共有してい  
く。会の最大の魅力は会員個々にあることを認識し、積極的な  
参加交流が会の活性を生み、品性に磨きをかけてくれると思  
います。

公益法人にもなり、社会へよりかかわっていくことが大切に  
なりました。皆さまにもご理解とご協力の程よろしくお願いし  
ます。

## 通常総会レポート

4月から5月にかけて JIA 東海支部ならびに静岡・愛知・岐阜・三重 各地域会の通常総会が行われた。

### ●東海支部

#### 5月13日(金) APAホテル名古屋錦にて

2016年度東海支部通常総会は総会に先立ち、故・加藤幹彦会員、故・玉井光洋会員、そして熊本地震の犠牲になられた方々に対して黙祷が行われ、石田壽支部長が挨拶された。『つなぐ』をテーマに2年間活動を行ってきたが、役員・会員の皆さまのおかげで目標を達成することができたと自負している。ただし、今後の課題は多く、会員規定の改正に結実した正会員と登録建築家の整合性、デザインビルドをはじめとする発注方式の多様化により、今後厳しくなる設計環境に対して、会としての取り組み方を模索していかなければならない」ことなどを話された。

その後、久保田英之支部幹事長により開会が宣言され、定足数(定員数358名のうち出席者72名、有効委任状151名の計223名:会員数の1/5以上)の確認がされ、総会の成立が確定した。さらに、議長に田中英彦会員の選出、議事録作成者として見寺昭彦会員、議事録署名人に生津康弘会員、谷川誠会員が選任された。

第1号議案・第2号議案は関連性のため一括で審議。第1号議案2015年度事業報告は石田支部長より、名古屋で開催された「JIA東海支部大会2015『都市の多生～名古屋の成り立ち・これから～』」、主要事業である会報誌「ARCHITECT」の発行、「東海支部建築設計競技」、「東海学生卒



会場の様子



車戸慎夫・新東海支部長

業設計コンクール」、「JIA東海住宅建築賞」、「子どもの建築学校」のほか、静岡・愛知・岐阜・三重の各地域会の事業報告などが説明された。第2号議案2015年度収支決算は久保田支部幹事長より全体内容の具体的な説明がされた。全体としては約41万円の黒字で、これは事務局家賃の減少、「ARCHITECT」の頁数減少により、支出を約90万円削減できたことにより達成できた。しかし、同会報誌の広告費は減少の傾向にあり、今後の課題であると伝えられた。また、支部大会について、今年度は特に多くの協力会員の方々の参加に助けられ、若干の黒字を出せた結果が伝えられた。以上の内容について中村久監査より、適正との報告がされた。以上の報告に対して質疑はなく、第1号議案・第2号議案ともに満場一致で承認された。第3号議案 役員選任に関して、福田一豊選挙管理委員長より、選挙経緯の報告、幹事・監査候補が紹介され、満場一致で承認された。第4号議案、そのほかは会場より意見なしのため抹消された。

報告事項として2016年度事業計画について、車戸慎夫新支部長より、公益社団法人に移行して3年、これまでの役員・会員の努力により、新たな組織運営も軌道に乗り、いよいよ社会に対してより一層、JIA活動を問いかける時期である。個性豊かな会員の皆さまと共に、JIA活動が「地方創生」の一助となるべく努力したいという基本方針が話され、そのための事業計画の説明がなされた。また矢田義典新幹事長より2016年度予算についての説明があった。

すべての議案が滞りなく審議・承認され、総会は閉会された。



中澤賢一 | 東海支部会報委員長・愛知地域会ブリテン委員長



大瀧正也・新静岡地域会長

### ●静岡地域会

#### 4月25日(月) ホテルシティオ静岡にて

村松篤地域会長(2015年度)は挨拶の中で、任期を振り返り、2年がかりとなったが東部・中部・西部の3地域で「建築フェア」を開催でき、JIA静岡の活動を広く発信できたのではないかと話された。

総会は、会員数64人のうち、出席者22人、委任状提出28人で、定足数を満たしていることが確認された後、伊久美太助議長の議事進行によって進められた。第1号議案「2015年度事業報告の承認の件」、第2号議案「2015年度決算報告の承認の件」、第3号議案「地域会役員改選の件」の全てが承認された。その後、本年度から地域会長となる大瀧正也氏より、2016年度の事業計画及び予算について報告があり、「基本方針」として、①閉塞感のある社会状況の中、われわれ建築家にいったい何ができるのか、何をなすべきなのか、今あらためて考える時ではないか。②建築のプロフェッショナルとしての専門技術の提供だけでなく、社会に対する誠実さや思いやりといったことを大切にしたい。③一般市民に対し、「建築家とは何か」「職能団体とは何か」といったことをPRするための「建築フェア」を来年度開催し、今年度はその準備をする。一といった説明があった。

通常総会終了後は、藤村龍至氏の記念講演会が行われ(※P9にて詳細掲載)、その後、講師・来賓・法人協力会員も交えての懇親会が開かれた。



石橋 剛 | 静岡地域会副地域会長



久保田英之・新愛知地域会長

### ●愛知地域会

5月13日(金) APAホテル名古屋錦にて

司会進行は、澤村喜久夫総務委員長で、最初に来賓の紹介があり、石田壽東海支部長と鈴木利明本部理事の紹介がありました。続いて本年度亡くなった会員の方のご報告があり、黙祷が行われました。それから、水野豊秋愛知地域会長の挨拶となりました。水野地域会長からは、最近の業界に活況が感じられることや、会員の自主性を大切に活動の意義についてお話がありました。司会者から本日の出席者および委任状の数が発表され総会の成立が宣言されました。議長は司会者一任で尾関利勝会員が選任され、以降尾関議長の進行で議案の審議が始まりました。

第1号議案は「2015年度事業報告承認の件」で水野地域会長により2015年度報告が読み上げられました。第2号議案は「2015年度収支決算(監査報告)承認の件」で見寺昭彦総務室長から決算書の説明があり、引き続き服部滋監査から監査報告がなされました。その後、議長呼びかけで挙手多数にて第1号・第2号議案ともに承認されました。

JIAが公益社団法人になってから次年度の「事業計画」と「予算」は報告事項となり、久保田英之・新地域会長から「2016年度事業計画」、見寺昭彦総務室長から「2016年度予算」の報告内容が説明されました。出席者からの質疑は特にありませんでした。

以上をもって、およそ40分の総会は厳粛に進行され、混乱もなく無事に終了しました。



吉村昭範 | 愛知地域会広報委員長



長尾英樹・新岐阜地域会長

### ●岐阜地域会

4月27日(水) ホテルグランパール岐山にて

大瀧繁巳氏の司会進行、加藤幸治岐阜地域会長の挨拶で会は始まりました。その後、本日の出席者および委任状の数が発表され総会の成立が宣言されました。議長には車戸慎夫氏が選出され議案審議が進められました。

はじめに1号議案として、加藤地域会長より「2015年度事業報告」、小塚進氏より「2015年度収支決算報告」がなされ、滞りなく可決承認されました。続いて、長尾英樹新岐阜地域会長より2号議案「2016年度岐阜地域会基本方針」「2016年度事業計画案」、小塚進氏より「2016年度収支予算案」が発表され、全会一致で承認されました。その後、3号議案「2016年度岐阜地域会新役員承認の件」が可決され総会は滞りなく終了しました。

閉会の辞にて、長尾新地域会長は「会員減少が続く中、会員拡大には尽力していきたい。また会員の負担とならないよう事業のスリム化を図りつつも、魅力のある活動をしていきたい。」と話されました。事業計画としては数年続いている「JIAの窓」にて、会員以外の建築家や学生も交えての講演会や建物見学会を主軸において、より公益性の高い事業を行っていく予定になっています。

その後、会場を移動し、来賓、法人協力会員を交えての懇親会が催されました。



山田浩史 | 岐阜地域会副地域会長



奥野美樹・新三重地域会長

### ●三重地域会

4月21日(木) 東洋軒にて

通常総会は定例通り開催され、司会の川崎貴覚氏により進められた。開会の挨拶では、中西修一地域会長より2年間の任期中に行われた事業などについての報告並びに感謝の言葉があった。来賓として出席していただいた石田壽支部長、久保田英之幹事長、矢田義典氏を代表して石田壽支部長より挨拶をいただいた。

議事は、議長に久安典之氏を選出。議事録署名者に伊藤達也氏、森本雅史氏が選任された。事務局の川崎貴覚氏により会員数29名中出席者20名、委任者3名、計23名により会員数の1/5の定足数を満たしていることが確認され総会成立が宣言された。

第1号議案「2015年度事業報告」を川崎貴覚事務局より説明。第2号議案「2015年度事業収支決算報告」を西出章会計、会計監査報告について清水一男氏より説明があり順次承認された。第3号議案「相談役」について清水一男氏を選任し、承認された。

議事が終了し議長が解任された後、新役員による報告事項へと続き久安典之氏が進行役を務めた。奥野美樹新地域会長により、①地域会規則改定の報告、②地域会運営細則改定の報告、③2016年度役員等構成の報告、④2016年度事業計画の報告、⑤2016年度事業収支予算の報告一が行われた後、通常総会は閉会となった。

総会後には記念講演会(※P10にて詳細掲載)が行われ、「本居宣長旧家と記念館のあゆみ」について本居宣長記念館館長・吉田悦之氏により講演をいただいた。その後同会場にて講師も交えての懇親会が開かれた。



相原宏康 | 三重地域会前広報委員長

## これからの建築家の役割

5月13日の2016年度JIA東海支部通常総会後、「JIAを取り巻く業務環境について思うこと」と題して、森暢郎・副会長の講演があった。

現在の建設業界の情勢として、公共工事は主に土木工事が主体であるが、その多くは維持・管理・改修に費やされていること、建築工事は民間に頼るところが大きく、大手ゼネコンはリニューアル工事などを積極的に進めることで利益の回復を図っているが、下請け企業までは回っていないことなど、多くの問題点の指摘があった。また、2020年の東京オリンピック後に訪れるであろう、建設投資の減少に伴って、大手ゼネコンは設計施工一括方式の拡大を目標にし、中堅ゼネコンはより地域密着型に傾倒していくとの予想である。

では、建築家（設計者）はこの状況下でどう対応していくべきなのか。例えば、最近の発注方式はコンペ・プロポーザル・入札とある中で、設計施工一括方式の増加に伴い、コンソーシアム型・実施設計共同型・実施設計分断型・実施設計ゼネコン単独型と、より多様化の傾向にある。それにより、発注者・設計者・施工者の役割も多様

化していると考えられるが、工事費の削減、工期短縮を重要視する発注者の考え方に、私たち設計者はしっかり対応していかなければならない。このような状況になった原因には、コスト管理が下手であるとか、責任が曖昧であるといった設計者側の問題もあるという、厳しい話だった。

今回、JIAは建築士会、建築士事務所協会と共に、建築士法の改正など多くの問題について意見交換会を行い、自民党議員連盟や国交省住宅局との協議、野党への説明など、今までにない活動だったようだ。

多様化する建築発注方式の中で、設計者が望むプロポーザル方式は、都道府県では20%、市町村では7%と、いまだに競争入札が圧倒的に多い実情にあって、設計三会がまとまること、JIAとしての意見を届けることは大いに意義のあることだと思う。

これまで、私たちJIA会員は、一定の知識・技術を持ち、その責任を負うにふさわしい高度な能力と倫理意識を持つ建築家であるために厳しい自己研鑽を行ってきたが、その努力の成果と高い能力を、より広く世間に知らせる方法についてはあまり重きを置いてこなかったのではないか。

声を大にしなくとも、理解してもらえると考えていたかもしれない。

実は、今年度、私はCPD評議会の委員をさせてもらうことになったので、できるだけ多くの会員にCPD制度の理解を深めてもらい、業務に利用してもらおうと思っていたところ、先輩会員から厳しい意見をいただいた。「良いデザイン、良い仕事をするのが一番大事である」と、ごもつともである。

設計施工一括方式で決めるメリットは、合理的であり、高い施工技術力が期待できることであるが、デザイン性においては満足度に欠けるのではないかと懸念もある。そこに、私たち設計者の存在意義があり、合理性と対抗できる大きな力であると考える。

しかし、現在の住宅建築だけを考えてみても、ハウスメーカーや工務店など、設計施工一括方式に依頼する施主が多いことは事実であることから、優れたデザイン性だけでなく、施主が一番望んでいるものは何かを冷静に分析することが重要ではないか。広告や宣伝が上手いとか、コストパフォーマンスが良いとかではない、建築家（設計者）にしかない強みを持つことが必要であると考えます。

その上で、私が森副会長の話から考えたことは、アイデアやデザイン、技術の向上のための自己研鑽はもちろんのこと、一方的に与えられた業務環境の中でもがくだけでなく、行政に対しては積極的に提言を行い、社会に対してもより分かりやすく情報発信をしていくことが、これからの設計者にとっての重要な役割なのではないかということである。



満員の会場

豊田由紀美 |  
Y's建築設計事務所





## 藤村龍至氏「建築家不要論の時代に」

4月25日、JIA静岡地域会・総会記念講演会として藤村龍至氏の講演が行われました。タイトルは「建築家不要論の時代に」。「大上段に構えたタイトルですね」と言いながら始まった講演会は非常に密度の濃い内容でした。1995年に宮台真司氏や東浩紀氏によって唱えられた建築家不要論(建築家はコミュニケーションを理解していないために、建築家が「地域性を考慮して設計した建物」には地域の人が誰も行かないと指摘)。その提言に対して、藤村氏が、建築家に求められる設計手法や役割、今までやってきた活動について実例を交えながら説明されました。一例を挙げると、藤村氏が提唱する「超線形的プロセス論」についての解説がありました。この方法は、まず単純な形態を想定するところから始め、「ジャンプしない」「枝分かれしない」「後戻りしない」というルールのもと、細かな設計条件の一つひとつに個別に応えるかたちで案を修正し続け、最終的にあらゆる条件に見合った

建築を抽出するというもので、例え話なども使いながら分かりやすく説明していただきました。超線形的プロセス論、批判的工学主義の建築、プロトタイピング、リアルアノニマスデザインと次々と展開していく藤村氏の設計手法は、一貫して建築は人のためにあり、人から求められている建築とは何かという探求心により生まれた方法論であると感じました。また、建築家独特の考え方を一般の人に示すことは社会の役にも立つことだという言葉聞き、その方法論の出発点を理解しました。

その後、藤村氏の話は学生にどう建築を教えるかという内容に移ります。藤村氏は、学生が行った設計に対し開かれた評価を行い、優秀な一部の学生だけではなく全ての学生が参加できるようにすることで、設計に対する情熱を失わせないように仕組みづくりを実践しています。

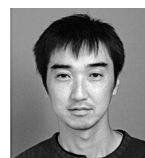
通勤途中の電車の中でのツイッターがきっかけで、鶴ヶ島市長とつながったこ

とにより始まった「鶴ヶ島プロジェクト」では事業化される前に学生たちが提案し、住民・行政が意見交換を行いました。通常は行政のみで検討され、事業化されたものを条件に沿って業者がつくるプロセスですので、今までと全く違うアプローチと言えます。学生にとっては、実務的な設計過程を体験でき、住民は学生たち相手ということで参加しやすく、また、参加することで意識が高まることにもつながります。こうした住民・行政・大学が協力し合ってまちづくりを進めることで、マスコミにも注目され、盛り上がりも大きくなり、更に参加者たちの意識が高まるという相乗効果が生まれることが何より大事であると感じました。また、私たちが常々感じている事業計画自体の必要性についても解決できる手法であることは間違いありません。藤村氏のこの手法によるまちづくりへの参加は、「鶴ヶ島プロジェクト」に始まり、大宮東、愛知県岡崎市の乙川計画と活動の場を広げています。

藤村氏は、まちで実際に事業化される前に提案する、柔らかい状態で分析する役割として、中間的立場としての大学のかかわり方を見出し、展開していきました。そして、JIAという専門家組織も中間的立場の存在としての役割を担うことが、存在意義として考えられると示されました。このように、公共政策において、事業化する前に参画できるということは、私たち建築に携わる人間にとって何よりやりがいのあることなので、実現するために活動していきたいと感じました。



講演会の様子

大橋康孝 |  
高橋茂弥建築設計事務所

## 本居宣長旧宅と本居宣長記念館

2016年4月21日(木)開催された三重地域会通常総会は滞りなく終了しました。出席者が地域会員の2/3を超え、委任状提出がごく少数でした。懇親会の前のJIA三重地域会恒例の外部からの講師を招聘しての特別講演会の時間は、総会を終えた安堵感と、新旧執行部で迎える唯一の事業です。出席者一同、聴講する姿勢が積極的で、それを感じての講演は、より熱のこもった内容となり、まさに絶妙のひとつ時と感じました。

今回の講師は、JIA三重地域会が1月23日(土)に「建築家と松阪を歩こう」と題して行った建築ラリー 2016で城下町を歩いた際にコースの一部として訪れた、松阪市の松坂城跡(2011年に国の史跡に指定)の隠居丸跡辺りに建つ、公益財団法人鈴屋遺蹟保存会本居宣長記念館の館長で長年に渡り本居宣長の研究を続けておられる吉田悦之氏をお迎えしました。テーマを「本居宣長旧宅と記念館のあゆみ」と題して60分間という短い時間の中、ぎっしり詰まった内容から、特に感じた部分をご紹介します。

記念館の敷地をつなぐように建っている本居宣長旧宅は、もともと城下町の松阪商人の代表格である魚町の長谷川家の向かいに建っていました。いつの頃からか、「何で松坂城跡の高い所で、あんまり通りから見えず静かな部分に移築したの

だろう? 単に敷地が空いたからそこに移したのかな?」などと、疑問に思っていたこともあり、非常に興味を引く講演内容で、歴史を学ぶことでその謎がほぼ解けたことは大変うれしく思いました。

明治天皇が、明治38(1905)年、日露戦争戦勝奉告に伊勢神宮参拝を行った際、遺蹟保存会のために、郷土の偉人本居宣長旧宅を大切に保存することを目的として、当時のお金で五百円を寄付されました。明治26(1893)年の大火を逃れた旧宅は、郷土の実業家や資産家からの多額の寄付金が集まったことによって城跡内の隠居丸跡付近に移築されました。城の天守閣は1644年の台風で破壊されていますが、旧宅の建つ位置は城跡内では、風を受けにくい場所です。当時の人たちが、「旧宅を守ろう」、「自慢できる位置に建てよう」と場所を選んでいたことが良くわかるとのこと。

「地元に残り、地域がそれを守っていくことは、日本の文化を守ること。その地に行けば、この検証が可能であるということである」と吉田館長のお話です。最近の調査の結果から、隠居丸跡に移築をした際、いずれは元の魚町の位置に戻すための策を講じて、礎石を残していたという記録が残っていることが判明したそうです。

現在の本居宣長記念館は、鉄筋コンクリート造の2階建て(耐震改修リニューアル工事のため、2016年7月～2017年2月21日まで閉館)です。昭和42(1967)年当時の梅川市長の決断により今の場所に建てられました。完成したのはそれから3年後

の昭和45年。寄付金も多く集まったので竣工でした。さらに昭和48年には、今の天皇陛下の皇太子同妃両殿下が行啓訪問されました。

今の時代、博物館として重要な文献や保存資料などを守ることを考えて、4年前には、「史跡の中に建っていることが良いのかどうか?」あるいは、「急な坂道を上ったり下りたりすることは、施設のバリアフリー化は図れても、アプローチが大変である」などの理由から、答申書が提出され、市内のどこかに移転しての新築計画の話もあったとのこと。しかし、旧宅を守るために建てられた本居宣長記念館なら、旧宅に寄り添い守っていくことでこそ役割が果たせると思うし、その存在価値が高まると感じました。まだまだ寄付金も受け付けており、ご興味のある方はぜひ一度訪れていただきたいと思います(来年3月まではしばらく休館状態となりますが)郷土の誇りであり、新しく生まれ変わる本居宣長記念館に期待しています。

### ●本居宣長(もとおり・のりなが)

享保15年5月7日(1730.6.21)～享和元年9月29日(1801.11.5)。18世紀最大の日本古典研究家。伊勢国松坂(三重県松阪市)の人。木綿商の家に生まれるが、医者となる。医業のかたわら『源氏物語』などことばや日本古典を講義し、また現存する日本最古の歴史書『古事記』を研究し、35年をかけて『古事記伝』44巻を執筆する。主著は他に『源氏物語玉の小櫛』、『玉勝間』、『うひ山ふみ』、『秘本玉くしげ』、『菅笠日記』など。鈴と山桜をこよなく愛し、書齋を「鈴屋」と呼び、また山室山にある奥墓には山桜が植えられている(本居宣長記念館HPより抜粋)



講演の様子



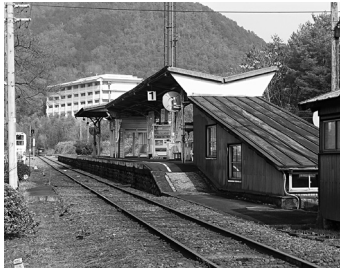
伊藤達也 | 設計工房NEXT

登録有形文化財

長良川鉄道美濃市駅



本屋正面の車寄せ



プラットホーム 延長98m 側面玉石積み



待合所とホーム上屋 停車中の観光列車「ながら」



■紹介者コメント

市街地の南東部に位置する美濃市駅は、大正12(1923)年、国鉄越美南線の美濃太田駅と当駅間の開通と同時に美濃町駅として開業した。昭和29(1954)年、美濃町の市制に伴い美濃市駅に改称、昭和61(1986)年に第三セクター長良川鉄道株式会社に引継がれた。

駅舎(本屋)は木造平屋建て、切妻平入り銅板葺き、外壁は下見板張りである。正面に妻入り棧瓦葺きの車寄せ、背面に上屋付き連絡通路が続く。西寄りに待合室と改札口、東側に駅長事務室や休憩室などが配置されている。駅開設時に建てられた駅舎はその後改修を受けているが、基本的な構造はそのまま残り、大正期の官鉄駅

舎の姿を伝えている。

プラットホームは駅舎の南側に位置し、駅舎より高い位置にある。島式ホーム一面二線の地上駅は、連絡通路から先の地下道、階段で結ばれている。ホームには木造平屋建て、外壁下見板張りの待合所と、古いレールを柱に転用してつくられた上屋二棟がある。古いレールには1887年キャメロン社(イギリス)など製造年や製造元を示す刻印が5カ所に確認され、歴史を物語っている。

長良川鉄道越美南線は北濃駅まで総延長72.1キロメートル。沿線には旧中山道太田宿の「美濃加茂市」、刃物と鵜飼の町「関市」、美濃和紙とうだつの上がるまち並みの「美濃市」、城下町郡上八幡の「郡上市」など自然と歴史に特

色のある観光地が点在している。

また、今春運行が開始された観光列車「ながら」は、水戸岡鋭治氏のデザインによる内装で、岐阜県産の木がふんだんに用いられている。美濃市駅を出ると列車は清流長良川に寄り添うように走り、車窓からは美しい自然を眺めることができる。

所在地：岐阜県美濃市字沓掛2946-6

登録番号：21-0216(本屋)

21-0217(プラットホーム及び待合所)

登録年月日：2013年12月24日

参考資料：美濃市ホームページ

澤村喜久夫 |  
伊藤建築設計事務所



データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

オリナス一宮 旧名古屋銀行一宮支店

■発掘者コメント

東海銀行(現三菱東京UFJ銀行)の前身の一つであった旧名古屋銀行は1882(明治15)年に開業し、1905(明治38)年以降に愛知県内及び岐阜・静岡各地の私立銀行の営業譲渡を受け支店を開業、拡大していった。一宮支店は1893(明治26)年設立の豊島銀行の営業譲渡を受け、1907(明治40)年に開設された。今回紹介する旧名古屋銀行一宮支店は、真清田神社の門前街として発展した商店街の中心に位置し、鈴木禎次の設計により1924(大正13)年に建設された。時を経た1941(昭和16)年、旧名古屋銀行、旧愛知銀行、伊藤銀行は合併して東海銀行となり、引き続き東海銀行一宮支店として使われた。1980(昭和55)年、東海銀行一宮支店が移転すると一宮市はこの建物を購入し、西分庁舎として利用した。2014(平成26)年5月、一宮市役所新庁舎の完成移転後は市民活動施設へ転用するために保存再生を考慮した減築改修が行われ、2016(平成28)年4月、市民ホール「オリナス一宮」としてオープンした。名古屋を創った建築家と称される鈴木禎次は、鶴舞公園噴水塔・奏楽堂・旧中整家住宅など名古屋市内及び周辺市町にて多くの建物を設計し



左上 | 正面外観 左下 | 1階吹抜け  
右 | 金庫室扉



所在地：一宮市本町2丁目4-34  
建設年代：1924(大正13)年  
構造・規模：鉄筋コンクリート造  
3階建  
設計者：鈴木禎次

ている。夏目漱石の妻鏡子の妹を妻とする鈴木禎次は、名古屋で数少ない帝国大学出身の建築家であり、1906～22年まで名古屋高等工業学校建築科(現名古屋工業大学工学部社会工学科 建築・デザイン分野)の教授をつとめ、退官後は名古屋で鈴木建築事務所を開設している。

さて、4本のジャイアントオーダーの柱を有する外観は、上方部分が商店街のアーケードで隠れているがかつては石貼であった。過去のアーケード改修時に白く塗装され今回の改修で石目調の塗装が施された。風除室や1階腰壁は原設計を元に

復原されたという。開口部の防火防犯用シャッター、矩形の営業室・客溜り上方の吹抜け、張り出した金庫室など、当時の銀行建築の典型を見ることができる。金庫の扉や階段の手すりそして吹抜の天井や梁や中2階の開口部(中2階側は封鎖されている)などに建設当時の面影を残している。中心市街地に歴史建築が蘇り、まちに奥行きを感じるような想いがする。

谷 進 | タクト建築工房

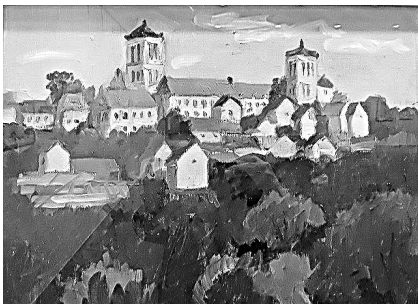


## 第11回美術サロン開催! 今後の展開に期待!

第11回 JIA 愛知美術サロン展が、4月12日(火)~17日(日)まで、東区の中電東桜会館で開催されました。会期中の来訪者は、360名あまりと盛況でした。

デッサン会へ外部からの参加の問い合わせもあり、公益社団法人ならではの言えます。毎年好評価を頂いていますが、他団体とのコラボの話もあり、益々の支部会員の参加をお待ちしています。

田中英彦 | 連空間都市設計事務所



### ヴェズレーの丘

パリから南へ約150km、宗教都市ヴェズレーがある。丘の上に大聖堂があり、門前街が麓に向かって形成されている。巡礼者の拠点として栄え、今も観光客でにぎわっている。ふもとの村から眺めた風景スケッチ旅行で取材した。パリからバスで行くのが良い。フランスの美しい村が点在し、黒田清輝がフランス滞在中のグレのまちなみにも近くあり、海外旅行でぜひおすすめしたい地方である。

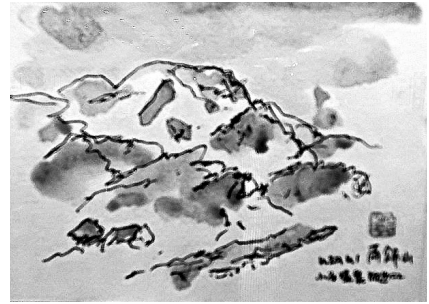
栢本良三 | 錦建築設計



### 南の果ての集落 (波照間島)

波照間島(はてるまじま)=[はて](果て)の「うるま(珊瑚礁)」の「島」。島名の語源には諸説ありますが、とにかく人が住む日本の最南端の島です。その中でもおそらく一番南の集落の入口。赤瓦の民家の前には大きな木とそれを石垣が取り囲む「スンマシャー」があります。病魔や凶事が集落に侵入するのを遮るために設けられ、ここからが生活の場という「結界」の目印です。

榎戸正浩 | 石本建築事務所



### 雨飾山

その姿も名も何か優美でいつかと思いつつ、登ったのは後年の平成10年ごろのことであった。水芭蕉が咲き、山椒魚が生息する湿地帯を抜け、登板にかかると実際は急登続きの山であった。ちょうどこの日は登山口でハブ酒をふるまっていた、下山してからと楽しみにしていたが間に合わず無念の思いもしたが稜線の花々、双耳の頂から眺めた富山湾の壮麗さに満たされた山行であった。』

神谷義夫 | 神谷義夫建築設計事務所



### 伊勢湾台風: 貯木場は海になった

伊勢湾台風は、伊勢湾に流れ込む天白川と貯木場との仕切りの石垣でつくられた堤防を決壊させた。津波のように市街地を襲った海水は、あっという間に水かささが3メートルを超えた。流れ出た丸太と流木などにより、この白水小学校区だけで927人の犠牲者が出たのです。海となった貯木場を、色を付けて表現した。忘れ去られていく災害を記憶に残すため制作している。

川窪 巧 | 川窪設計工房



### 大浦天主堂

昨年夏訪れた長崎の大浦天主堂。「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として平成28年度の世界遺産登録を目指していた国宝の最古の教会建築。当時の気候は蒸し暑く、登録前の観光で訪れる人の想いが雲の蠢き現れているようだった。長崎の教会群は平成30年の登録に向けて活動が続くが、筆も持ち続けていかなければ。

後藤文俊 | アトリエ後藤建築事務所





### ヴィットリオザの教会

地中海に浮かぶ島国、マルタ共和国。聖ヨハネ騎士団によって、16世紀から要塞都市の街づくりが始められ、ヴィットリオザは最も古い都市。首都のあるラ・ヴァレッタ（世界遺産）と、悠久の歴史と建築、街と海の織りなす風情は、今を忘れさせる。世界屈指のリゾート地でもあり、リゾートマンションが立ち並び、ヨットハーバーが色溢れを添えている。



田中英彦 | 連空間都市設計事務所

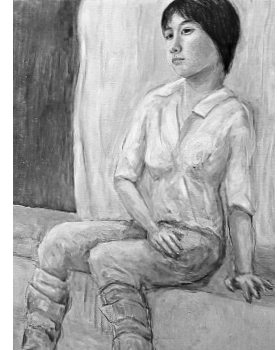


### 秋の棚田

今年は水彩5点とパステル1点を出品した、掲載写真は昨年秋スケッチ旅行に出かけた丸山千枚田を描いたF30号の作品（水彩）である。黄金色に輝く稲穂の色が一面に拡がり、明日の天気予感させる雨雲の間から差し込む夕日に田んぼが照らされてとても美しかった。逆光で山肌が単一な色彩になっていることもあり、単色を組み合わせた構成とした。



福田一豊 | 福田建築事務所



### 白いブラウスの人

今年の四月、名古屋市美術館で、私は、東京芸術大学日本画科の卒業制作の女性像に心を奪われました。絵を通して、人物の思いとその背景の豊かさが、物語として伝わってくるのに感動しました。この作品は、一旦描き終えていた作品でしたが、美術館で見た繊細な表現にあこがれ、もっと写実的に表現したくなりました。サロン展直前まで心をこめて描きました。



山田尊久 | 山田尊久建築設計事務所



### 冥

今回初めて出展させていただきました。ところで山田姓がなんと3人目とは驚きではありません。デッサン1点含め5点の出展です。日頃は対比のことに興味があり、出品作品の「冥」（メイ）は、明と暗・生と死・都会と田舎などを表現したものです。これからもモチーフにこだわらず、つたない絵を描いていきたいと思っています。継続は力なりを信じて。



山田恒雄 | 市民参加



### 安倍文殊院 善財童子

初回の美術展へ参加の声をかけていただいたものの、以前に描いた作を出展した。来年もやるとの事で再び描き始めて、10年。早いもので第11回となった。年に一度のこのような機会がないとなかなか筆を持たない。今回も1カ月前になってようやく筆をとった。あと10年続けられるかどうかは分からないが、ある程度ゆとりを持って、楽しみながら続けていきたいものです。



山田正博 | 建築計画工房



### 休憩中のポーズ

今回の作品は、日ごろ行っているデッサン会での作品です。昨年、開催されたスケッチ旅行に仕事の都合で、参加できなかったのが、日ごろ開催されているデッサン会での作品です。このモデルさんは、初めてのモデルさんで、腰に外ターがあり、本人もポーズ中は、気にしているようで、緊張されているように感じました。休憩中のモデルさんは、緊張感から解放されて、のんびりとした気分がポーズに現れていて、それを表現できればと、描きました。



吉川法人 | 吉川法人+都市建築デザイン室

## 約2カ月ぶりの理事会、今期諸まとめも睨み議案多彩

本部理事 鈴木 利明



第233回理事会は2016年5月10日(火)13時30分～17時10分、建築家会館1階大ホールにて集合方式で開催された。出席者は会長以下、理事24名、監事2名、事務局2名、オブザーバー(主に新理事候補)7名(欠席理事1名)。

### 【審議事項】

#### 1. 入退会承認の件(事務局)

1) 新規入会希望:正会員18名、準会員:専門2名、ジュニア3名、学生1名、協力会員:法人10件、種別変更希望:シニア6名、個人協力1名、退会希望:正会員37名、シニア1名、ジュニア1名、法人協力会員8件、(退会過多は会費更新期?)以上、承認。

2) 正会員数3,913名(5月10日現在)(前月末の全会員合計5,511名)

#### 2. 会員資格喪失者承認の件(上浪寛総務委員会委員長)

2年分会費滞納者が対象(正39・専1・法協4:リスト提示後回収)。5月一杯に入金あればOKとの附帯条件確認の上で、承認。

#### 3. フェローシップ委員会、職能・資格制度委員会、建築資格制度実務委員会、CPD評議会委員承認の件(筒井信也専務理事)

① フェローシップ委員会委員承認 →承認

委員就任:水野 敦(北陸) 【報告】退任:近江美郎(北陸)

② 職能・資格制度委員会委員承認 →承認

委員就任:植野 収(東海) 【報告】退任:河野 進(関・甲)

③ 建築家資格制度実務委員会委員承認 →承認

委員就任:近藤 昇(関・甲)、藤巻志伸(東海)、喜多孝之(北陸)、鳥羽知夫(四国) 【3期目・継続】安達治雄(関・甲)大田司、(北海道)大和田靖典(東北)、堤 敏明(中国)

【報告】退任:小倉 浩(関・甲)、上浪 寛(関・甲)、東條隆郎(関・甲)、植野 収(東海)、高屋利行(北陸)、内野輝明(四国)

④ CPD評議会委員承認 委員就任:野中 茂(関・甲) →承認

#### 4. JIAまちづくり会議・JIA保存再生会議委員承認の件(筒井)

① JIAまちづくり会議委員承認 →承認

就任委員:安田 均(北陸) 【報告・退任】浦 淳(北陸)

② JIA保存再生会議委員承認 →承認

就任委員:和田耕一(四国) 【報告・退任】平野祐一(四国)

#### 5. ARCASIA大会誘致委員会(特別委員会)設置及び委員長承認の件(筒井+岩村和夫国際交流委員会委員長)

2018秋のアルカシア大会の誘致活動(候補地=横浜+東京)を展開する特別委員会を開催地決定までを期間として設置する。委

員長は国広ジョージ氏(委員は選定中)に委嘱する。→承認

#### 6. 事業ユニット規程(案)承認の件(筒井+上浪)

外部との契約を伴う本部(⇔支部・地域会)の業務の進め方について規程化→一部案文入替え等議論の上で、承認。

### 【報告事項】

#### 1. 熊本地震対応についての状況報告(角銅剛太九州支部長)

本部・九州支部・各地域会の活動一覧。応急危険度判定士窮状

#### 2. 委員会等体制見直しについて(森暢郎副会長)

本部委員会・全国会議など取り纏め中。公益事業委員会は修了

#### 3. NPO建築家教育推進機構についての報告(村田麟太郎同理事)

JIAと日建学院で構成。1級建築士定期講習と教育支援・助成

#### 4. NPO建築文化継承機構について報告(代理・上浪)

地域建築博物館設立提案 / JIA-KIT建築アーカイブス委員会

#### 5. 国際交流委員会報告(岩村)

5/9タイ・バンコクへの海外出張の報告資料紹介

#### 6. 文化財修復塾(仮称)歴史的建築データベース事業ユニットについて(左知子理事)

JIA文化財修復塾の概要・独自性と日程・実績について報告

#### 7. 「JIA建築家大会2016大阪」進捗状況(井上次期近畿支部長)

10/27～29、大会テーマ「笑都物語～繋いできたもの 繋いでゆくもの～」。

動員目標は全国830名・東海80名。5/14イベントあり

#### 8. 東松山市コンペ問題についての報告(連健夫理事)

#### 9. コンペ・プロポーザル方式による選定業務支援リーフレットについて(連)

JIAとしてC/P遂行支援を呼び掛け、活用を乞う。

#### 10. 活動及び業務執行状況報告(筒井+森)

① 公共建築発注方式の多様化への対応(公共建築設計懇談会・五会研究会等)報告:五会「多様な発注方式研究会」2015概要。→JIAと日建連・学会等との視点対比による論点・課題整理。

② 基礎杭問題への対応について:基礎杭工事問題対応協議会課題

③ 後援名義承認の報告(会長専決事項):3月4月分一括リスト

#### 11. その他

・ UIA基準の国際コンペ(Egypt “the Science City”)の紹介(岩村)

・ 「発注方式」については次期への重要課題! →各理事自由討議へ

# 東海支部役員会報告

今回の役員会は、新旧合同役員会として支部総会前に行われました。



矢田義典 | 矢田義典建築設計事務所

日時：2016年5月13日（金）15:00～15:50

場所：アパホテル 名古屋錦 4階「鈴鹿」

出席者：支部長、本部理事2名、幹事11名、監査2名、オブザーバー 16名

## 1. 支部長挨拶

この後、総会もありますので手際よくお願いいたします。

## 2. 報告事項

### (1) 本部報告

①第233回本部理事会（5/10）（鈴木利）

（※P14 理事会レポート参照）

②本部公益事業委員会（鈴木利）

公益事業委員会2015年度事業報告の紹介があり、発足後3年半を経過し一応の成果をあげていることから、ここで活動を終了する旨の報告がありました。今後、継続中の事業と課題はそれぞれ別の委員会に継承し、事業活動助成については財務管理委員会、CPDについてはフェロウシップ委員会に継承してもらう予定で、6月の本部総会で最終決定する。

③第13回本部広報委員会（4/20）（奥野）

市民向け広報のプレインストーミングが行われている。

④本部CPD評議会（4/27）（塚本）

動画視聴プログラムについて説明があり、必要な機能を追加し、現在CPD評議会委員内にて確認中で、問題なければ6月中旬に運用開始予定です。現在NPOにて40プログラムが視聴可で、今後増やして行く予定。また、動画視聴プログラムは原則100%視聴が必要です。事前申請の可否については、12月のCPD運営会議にて諮る予定で、それまでにJIAの方向性を示す予定です。

⑤職能・資格制度/建築家資格制度実務 合同委員会（5/9）（植野）

交代評議委員4名の公認を6月の総会までに会長専権事項で決定できればと考えている。昨年度の登録建築家の認定・更新・再登録状況で250名登録が増え、総数で2000人を超えた。JIA 大阪大会で資格制度に

関するシンポジウムを行う予定でパネリストへの打診中です。マニュアル類の更新作業については次回の審査までにマニュアルの更新作業を終える予定で、認定評議会で指摘された規則・細則の不備点の修正についても次回の審査までに理事会にかけ規則・細則の修正を行う予定です。

## (2) 支部報告

①正会員退会届：「樽林廣次（S）」「外山知徳（S）」（村松）

外山会員に関しては慰留しているので保留扱いとする。

②東海住宅建築賞について

・7/2の公開1次審査会のチラシをアーキテクトに同封します。

・チラシに記載のCPD単位は5単位ではなく4単位です。

## (3) 各地域会からの報告（各地域会長）

（※P15 地域会だより参照）

### 1. 審議事項

①事業計画 支部HP新規作成（矢田）承認

②入会申込書 法人協力会員「（株）ミヤムラ（三重）」（中西）承認

③種別変更 正会員→シニア会員「道家秀男（愛知）」（水野）承認

④「JIA ゴールデンキューブ賞2016/17特別委員会」発足について（鈴木賢）承認

⑤後援名義（一社）日本ツーバイフォー建築協会東海支部「ツーバイフォー大規模・中層建築セミナー（10/18）」承認

⑥東海支部 2016年度通常総会議案書について（久保田）承認

### 2. 協議事項

ありませんでした。

### 3. その他

①メール審議報告「熊本地震災害への支援金送金」について（久保田）承認

幹事12名より承認をいただき、100,000円を4/28に振込済です。

②フェロウシップからの報告

ウェルカムオフィスについての説明がありました。

### 4. 監査意見

慎重な審議に感服します。（山田監査）

2年間ありがとうございました。（中村監査）

## 地域会だより

### <東海支部>

5/13 支部通常総会

5/28 学生卒業設計コンクール公開審査・表彰式

6/10 支部役員会

7/8 支部役員会

### <静岡>

4/25 2016年度通常総会の開催。総会后、記念講演会および懇親会を開催

5/19 5月静岡地域会定例（拡大）役員会の開催

6/16 6月静岡地域会定例役員会の開催

### <愛知>

4/26 「地域が建築に求めるもの」  
イベントディスカッション「設計者のチャレンジを問う」

5/14 住宅研究会 「住宅のつくり方」第2回  
「建築プロデューサー田岡信樹氏から見る住宅」

5/20 「地域が建築に求めるもの」第1回「公共建築とニーズについて」

5/27 JIA 愛知・法人協力会主催ゴルフコンペ

6/25 住宅研究会 「住宅のつくり方」第3回「ハウスメーカーの住宅のつくり方」

6/26～27 住宅研究会 全国会議 郡山視察

6/17 JIA 愛知役員会/JIA 愛知・法人協力会CPD研修

6/24 「地域が建築に求めるもの」第2回「作用しあう建築のつくりかた」

7/5 JIA 愛知・法人協力会役員会

### <岐阜>

4/27 岐阜地域会 通常総会・懇親会開催（17:00～20:00）

場所：ホテルグランヴェール岐山

総会：5F乗鞍の間 懇親会：5F飛翔の間

6/3 第1回役員会開催（18:30～20:30）

場所：ハートフルスクエアG 2F 研修室4にて

### <三重>

5/19 第2回役員会、第1回例会

6/17 第3回役員会、第2回例会、会員研修1

7/15 会員研修2

9/9 持ち出し役員会

11/12 建築ウォッチング

## 会員と法人協会の絆づくりに取り組む活動

法人協会通信②④

<愛知>

四辻一正 | JIA愛知地域会法人協会会長 (TOTO(株)中部支社)



JIA愛知地域会・法人協会会長を務めさせていただいています、TOTOの四辻と申します。JIA会員の皆さま、法人協会会員の皆さまにおかれましては、平素より会の活動に、多大なるご支援いただき、ありがとうございます。私が法人協会の代表を務めることになってから、はや2期3年目に入りました。当初は右も左も分からずに皆さまにご迷惑をおかけしながら、JIA愛知地域会・水野地域会長、見寺総務室長、神谷会員委員長にご指導いただき、年度事業計画を法人協会役員とともに企画してきました。JIA会員の皆さまと交流を図る場を設け、法人協会会員のPRをすることができました。また、CPD研修会・見学会、さらにはボーリ

ング大会なども新規に企画して、法人協会会員のスキルを向上できたことは、法人協会役員の方々のご支援のおかげでもありました。

本年度は、久保田新地域会長のもとで、法人協会役員を中心に新規事業計画の推進を図り、5月20日(金)には2016年度の総会も無事終了することができました。JIA東海支部愛知地域会には、2016年



CPD研修会の様子 (2016年2月5日 中日パレスにて)

3月末時点で約260社が在籍され、法人協会として広くPRの場につながると判断しています。法人協会会員51社の方々の交流を図るとともに、JIA会員の皆さまへのPRができる機会をつくることに専念したいと思います。

また、事業計画を進める中で、多くの会員の皆さまが参加できるような雰囲気づくりを進め、「明るく・楽しく・元気良く」をモットーに法人協会役員会もスキルアップしていく次第です。皆さまの応援をお待ちしています。

●TOTO(株)中部支社

〒450-6412 名古屋市中村区名駅3-28-12  
大名古屋ビルヂング12F  
TEL 052-308-4718 FAX 052-308-5492

## 編集後記

●本号は、各新地域会長の就任あいさつ、各地域会の通常総会レポート、総会記念講演会のレポートといった、総会関係の記事が並びました。そのうち、私の所属するJIA静岡地域会の総会記念講演会には私も参加しました。レポート(P.9)にもあるように、藤村氏の公共建築にかかわるときの新しいアプローチの仕方は、これからの建築家のあり方として可能性を感じるものでした。中でも、「見積り調整にユーザーも参加する」や「利用者が建物の管理運営に参加する」といった発言が印象に残りました。また、「職能団体としてのJIAが求められる役割も、行政と市民の間に立つことではないか」という藤村氏からの提言も大変印象に残っています。東海支部総会記念講演会のタイトルも「JIAを取り巻く業務環境について思うこと」であり、「建築家のあり方」という永遠のテーマをあらためて考

える機会になりました。(石橋 剛)

●静岡・三重両地域会の講演会記事はタイトル・内容ともに考えさせられる内容だ。設計施工一括発注方式が好まれる傾向は設計専門の建築家にとって逆風と言わざるを得ない。設計意図や独自性と併せてコストや工法工期も検討できるという意味で現実性が高く、メリットは理解できるが、時間と労力を要する事や、秀逸なアイデアやデザインが一括発注や総合評価により埋没してしまうことなどが懸念される。評価の基準、優先順位、多様化する形態の展開を今後注視していきたいと思う。藤村龍至さんの独自性と「超線形的プロセス論」「鶴ヶ島プロジェクト」の手法は画期的な試行として興味深い。建築家の提案が受け入れられなかった独りよがりの例は多々あると思えるが、住民や行政の意見要望を建物に反映することは基本と言える。ただ、建築家は中間的立場とはいえ建物の良否を決定するプランナーとして機能しているので極論的建築家不要論は否定した

い(笑)。官の都合優先、使い手の意見不在の建物への貴重な警鐘である。周囲環境や求められる要件は厳しさを増しハードルも高くなるばかり、自身が「なりたい建築家像」を目指して日々精進することが大切と感じる日々です。(伊藤彰彦)

## ARCHITECT

第334号

発行日 2016.7.1 (毎月1回発行)

定価 380円(税込み)

発行責任者 車戸慎夫

編集責任者 中澤賢一

編集 東海支部会報委員会  
愛知地域会ブリテン委員会  
建築ジャーナル内  
ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-1-31 吉泉ビル 703

TEL (052) 971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http://www.jia-tokai.org/